



ファミケア

「通信」



寄 贈

『神 猿』

第35回秋田県現代水墨画作家連盟作品展
特 選

壽松木道作

(当法人理事)

vol. 17
2021.6.30 発行

当法人の壽松木道作理事より、水墨画「神猿」が寄贈されました。この作品は「第35回秋田県現代水墨画作家連盟作品展」で特選を受賞されたものです。壽松木理事は大雄壽墨の会を主宰されています。すこやか横手1階ホールに飾られていますので、お寄りの際はぜひご覧ください。

コロナ禍に思う



社会福祉法人
ファミリケアサービス
理事長 阿部 脩二

依然として先行きの見えない新型コロナウイルス感染症の流行、いわゆるコロナ禍は止まらない現状である。

国内のみならず世界的に蔓延し、社会生活の経済基盤が大きく揺るがされている。

「三蜜」対処法だけではなかなか収束できそうにないも状況を見るに、ワクチン接種と併行してある程度の私権制限にかかわる政策もより積極的に考えて国民の協力を得なければ容易に終息される疫病ではないと思われる。

自粛という人々の移動制限により、自由な日常生活にさまざまな制約が求められておりこれまで平和で自由な社会生活に慣れた現代人にとってはまさに耐え難い状況となっていることは確かであり、永い歴史の中で過去においてもさ

まざまな幾多の困難を乗り越えられて現在があることであり、現代の新しい科学の力を結集して、コロナ禍を克服し、すべての人々が安心して日常生活ができる社会環境を構築しなければならぬことである。

感染防止策として三蜜（密閉・密集・密接）対処を徹底し、マスク着用、嗽、手洗、手指消毒など習慣化することは当然の自助努力である。

在居の巣ごもり生活によって行動力のある人間が行動範囲を抑制されることは肉体的にも精神的にも大変つらいことである。

地域における伝統行事や催しものが中止されるなかで、自ら体を動かして運動することによって体力低下を防止することに努めることが元気な体を維持することであ

り、抵抗力も増すことでしよう。生活環境の変化とはいえ自粛生活の連続では気がめいつてしまうことです。趣味や豊かな自然とのふれあいを堪能するなど新しい出会いを楽しむことで、気分転換に時間をとることも大切なことである。

居宅閉塞生活が続く中で最も心配なのは子育て期にある保護者の心身の疲労から子どもへの虐待が増加傾向にあつて、その事態は看過できない社会問題でもある。現実そうした子どもたちを受け入れる社会環境が充分整っていない現状に国もその体制づくりに積極的に取り込むとされている。

とりわけ今年四月から当法人が横手市から移譲を受けて自主経営することとなった県南愛児園の整備促進を図らなければならない。

コロナ禍の中で私ども老人施設を運営するに当たり日頃利用者の皆様方には直接、間接を問わず何かと不自由、不便をかけている毎日であり誠に申し訳ない次第である。

勿論仕事を担う職員もいろいろな制約の中で日常業務は仕事とはいえ精神的な負担も負荷されている状況下で頑張っておられることは福祉事業の社会的使命とはいへ大変なことである。

永い間暮らしなれた日常生活が変わることは容易なことではない。これまでマスクを着用しての対話

などは非礼とされてきたが今日では逆にマスクなしでの会話は禁物であり、まさにあたりまえが変わる常態となっている。

マスクを着用しないで笑顔で明るく会話のできる日を待ち望んで、当分の期間は我慢の生活を覚悟しなければならない。

疫病、天災地変はいつ、どこで発生するかわからない。そのためには不断の備えが何よりも肝心なことであり、新たな生活習慣の工夫を考えなければならないと思われる。

特效薬のない新型コロナウイルスは次々に変異型の発生による拡大恐怖のなかで、国内において有効なワクチンが開発されるまでの間は、あらゆる自助努力によって厳しい現状を自己防衛する以外に手法はないでしょう。

『心のディスタンス…』

特別養護老人ホーム すこやか森の家

この度の新型コロナウイルス感染予防策の一つとして世に広まった「ソーシャルディスタンス（社会的距離）」という言葉ですが、最近では「フィジカルディスタンス（身体的距離）」への言い換えが推奨されているようです。

当デイサービスセンターすこやか森の家でも、利用者の皆様に手洗いうがい・手の消毒・マスクの着用などの感染症予防をご協力いただいております。皆様のご協力のおかげで昨年度の冬は風邪でお休みされる方がいつもよりも少なかったように感じます。ご協力、本当にありがとうございます。

さて、デイサービスの活動にも感染症対策のための自粛や制限の影響があり、なかなか以前のようなレクリエーションを行うことが難しい現状があります。そのような中、少しでも利用者の皆様に楽しんでいただけるように職員は工夫し取り組んでいるところです。今回はその中のいく



鯉のぼりゲーム

つかをご紹介したいと思います。

まずは、「屋根より高く！鯉のぼりゲーム」です。運動会などで旗を掲揚するように鯉のぼりをスルスルと上げていきます。季節の行事を楽しむとともに腕の運動にもなります。次に「物干しゲーム」です。こちらは洗濯ばさみに靴下やハンカチなどを干したり、取り込んだりするゲームです。洗濯ばさみをつまむことで指先の運動になり、脳にもいい刺激になります。また、毎月のカレンダーの壁面飾りも利用者の皆様と一緒に製作しています。その季節を感じられるようなデザインで工夫されており、ぜひ皆様にご覧いただきたい作品になっています。

まだまだ感染症対策には気が抜けない日々が続いていますが、私たち職員はこれからも利用者の皆様のマスクの下が笑顔で溢れるよう努力していきたいと思っています。そして、皆様の気持ちに寄り添う《心のディスタンス》を大切に、より良いデイサービスを目指して参ります。



季節のカレンダーで
ホールが華やかに

『おもてなしの心』

を大切に』

特別養護老人ホーム すこやか横手

「おはようございます！今日もよろしく願います！」と元気な声で一日が始まる、すこやか横手デイサービスです。毎日明るい声が飛び交っています。

新型コロナウイルスの感染対策にて様々な制限がある中、ご利用者・ご家族のご理解とご協力を頂きながら、「おもてなしの心」と「笑顔」を大事にしたサービス提供を心掛け、様々な取り組みを行っています。

ご利用者の皆様に楽しい時間を過ごして頂けるようレクリエーション活動を企画しています。ソーシャルディスタンスを保ちながらもゲームを実施したり、恒例となっている制作活動では、季節を感じて頂けるようちぎり絵制作を行っており、ご利用者からのアイデアも取り入れながら制作しています。



「手作りマスクケース」

昨年は「マスクケース」を手作りし、ご利用者の皆様にお渡しさせて頂きました。デイ



「職員のアイデア満載！ゲーム活動！」



「制作活動：季節折々のちぎり絵」

サービス利用時に活用してくださる方が多く、嬉しく思っています。これからも、「デイに行きたいがったな。」「今日も楽しかった。」「と言って頂けるよう、そしてサービスを利用することが、ご利用者の生活を支える一部となるよう職員一同で取り組んで行きたいと思っています。

『居宅支援事業所の移転』

特別養護老人ホーム すこやか大雄

令和3年4月1日より、西部地区の居宅支援事業所を、すこやか館合から当施設へ移転し、新たに居宅介護支援事業所すこやか大雄へ名称を変更し、改めてスタートを切りました。

当居宅介護支援事業所としては、元々の活動中心拠点である西部地区（大雄・大森・雄物川）は基より、横手の中心部における支援にも柔軟に対応できることで、更なるサービスの拡充を目指しています。また施設内には老人介護支援センターが設置されており、今回の居宅介護支援事業所の移転により地域の身近な総合相談窓口としての機能を強化し、地域包括支援センター等との連携も継続しながら、地域の皆様との結びつきを更に大切していきたいと望んでおります。

大雄地域は、ホップ畑や田園が広がる自然豊かな土地柄であり、これからの季節は施設の前にも緑が広がっております。自然豊かな過ごし易い環境の中で、「介護のサービスを受けたいけれど何から始めれば良いのか分からない」等の、介護保険に関すること、介護のお悩みについての相談にお応えします。ので、気軽にお願いいたします。



相談お待ちしております



管理者(中央)、介護支援専門員(右・左)

『コロナ禍でも楽しみのある生活を』

特別養護老人ホーム すこやか館合

新型コロナウイルスが世界的に猛威を振るっている中、事業所としてご利用者のために今まで普通に出来ていたことが制限され、退屈な思いや我慢をさせてしまっているのではないかと申し訳なさを感じることがもしばしば：

それでも何とか毎年恒例となっている「すこやか館合夏祭り」を開催しようとして春先の早い段階から担当職員がアイデアを出し合う姿がみられていました。周辺の感染状況から一時は開催が危ぶまれたこともあり、残念ながら地域との合同開催はできませんでしたが、すこやか館合の独自企画として令和二年八月二十二日、「すこやか館合夏祭り」は無事に開催へとこぎつけることができました。例年通りの規模での開催とはなりませんでしたが、感染対策を常に意識しながらささやかな中にもご利用者の笑顔を引き出す工夫を施し、



毎年恒例の大イベント
「すこやか館合 夏祭り」開催！



ま〜めで〜らが♪ ま〜めで〜らが♪
大盛り上がりの「まめでらが音頭」！

短い時間ではありましたが楽しい時間を過ごすことができました。会場は中央ホールに設置し、「密」を避けるためご利用者の皆様には時間差で参加していただいた。遊びの屋台ではおもちゃの金魚すくい、くじ引き、輪投げ、的当て、ババヘラアイスなどを準備し、どれも期待通り大好評でした。「まめでらが音頭」で気分も更に盛り上がり会場は終始、和やかな雰囲気包まれていました。

今回の経験でコロナ禍での事業所としての在り方がほんやりと見えた気がしました。リスクを恐れるあまり、何もしないのでは悲しすぎます。限られた条件の中で「できること」を探し、突き詰めていくことが求められる経験となりました。

『湯っこ』

特別養護老人ホームシルバードーム いきいきの郷

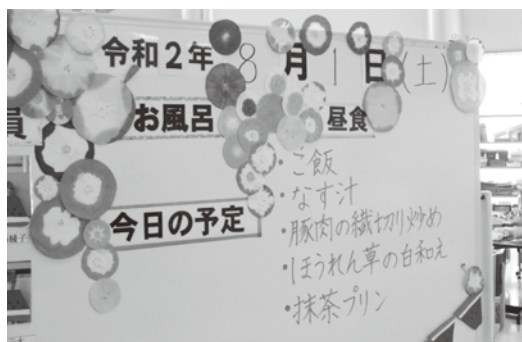
「今日の湯っこ大したいいな」「ここに入れば家さ帰ってもぬぐみあって夜寝るにいい」「やさっぱりしたなあ」、午前十時を過ぎる頃、賑やかで楽しそうな声がデイサービスの浴室から響いてきます。

体を清潔にして、心身を癒し、社交の場になるのがお風呂です。デイサービスは、お風呂を目的として利用される方が大半を占める為、少しでもゆつくり浸かり、楽しんでもらえるように工夫をしています。四月は桜、五月は菖蒲、六月はラベンダー、七月はレモンと毎月一週間季節限定のお風呂を楽しんでもらい、皆さんに喜ばれています。又、一週間限定の季節風呂の他にも、三十種類以上の入浴剤を日替わりで、湯っこを楽しまれています。

季節の変化をお風呂だけではありません。デイサービス玄関のウェルカムボードやデイルームの壁飾り、花や野菜植え、七日町食堂（調理レク）、納涼祭、クリスマス、節分などがあります。

新型コロナウイルスが猛威を振るっている世の中ではありますが、感染対策を行いながら、安心してデイサービスを利用してもらい、少しでも有意義に過ごしてもらい、

また来てもらえるように職員一同努めて参ります。



ウェルカムボードの飾り付けはご利用者様方の手作りです。



お風呂場も飾り付けをして雰囲気アップ！

『サンハイム縁日』

母子生活支援施設 横手市サンハイム

新型コロナウイルスの流行により、当初計画していた行事も規模を縮小したり、中止を余儀なくされたこの一年。9月に予定していたバスに乗っての親子レクも、中止することになり、それに変わるお楽しみ行事ができなかと考え、企画したのが縁日でした。

当日はヨーヨーつり、輪なげに駄菓子屋ブースが登場。会場いっぱいになるお囃子のBGMがさうらにお祭り気分を盛り上げます。

この日は職員も法被を着て、お母さんと子ども達をお出迎え。子ども達のいつもの遊び場が縁日の会場に様変わりし、普段とは違う雰囲気にもみんな驚きながらも、各ブースを回って楽しんでいました。

子ども達に一番人気だったのは、駄菓子屋ブース。事前に渡された、職員お手製のお金はこの日のお小遣いです！子どもたちはそのお金と交換に好きな物を買うことができたのですが、手持ちのお金と相談しながら少しずつ買い物を慎重な子、好きな物を気前よく大



いらっしゃいませ！！



どれにしようかな？



はいれ～！！

量買いたる子等、子ども達の様子も様々でした。幼児さんは、お母さんにお手伝いしてもらいたくないが、お買い物をする楽しさを味わっていたようです。

お母さん達に人気があったのは輪投げブース。輪っかを投げて点数を競う、とってもシンプルなゲームですが、上位3人には豪華！商品が当たるとあって、「難しい！意外と入らない！」と盛り上がっていました。

帰りには参加してくれた皆さんに横手名物の焼きそばのお土産付き！今回はお部屋に持ち帰って、ゆっくり食べてもらうこととなりましたが、こちらも「美味しかった！」と大好評でした。

新型コロナウイルス感染予防のため、今回は参加者を2組に分けての、30分二部入れ替え制という制限あるなかでの開催でしたが、お母さんと子ども達の楽しそうな声が会場一杯に響き渡り、職員も一緒に楽しんでくれたことのできた1日となりました。

『クッキングぐうぐう!』

児童養護施設

県南愛児園ドリームハウス

愛児園では食育の一環として職員の手作りおやつの日や子どもと職員が一緒に料理をするクッキングの日があります。

手作りおやつは季節のスイーツや子供からリクエストのあったものを職員が作ります。秋はかぼちゃのムース、春はイチゴ大福を作りました。子どもの反応は年齢により大きく違い、「おいしい!」と大喜びで頬張る幼児さん。「もっとないの?」とお替わりを求める小学生。「これ、誰作った? 大丈夫?」と警戒心強めの中高生。それぞれの反応が楽しめるのも手作りおやつ醍醐味だと感じます。

子どもたちが作りたいものをメインにするクッキングの日は、子ども同士で役割分担をして効率よく進めたり、回数を重ねるごとに包丁使いも上達していく様子が見られたりと成長を感じられる瞬間です。幼児さんはクッキングをして、数日たった後も「この前〇〇作ったよねー。また作りたい!」とお話をしてくれます。自分で作り、食べるという経験は記憶に残り、楽しいと感じてくれたことを実感しました。今後も子どもたちが主体となり、子どもと職員が楽しんで食事ができる様、工夫していきたいです。



きれいにあらいます!



女子は仲良くモチョコ作り



ハロウィン!

『コロナ禍での日常』

障がい者支援施設

ひまわり社

楽しみにしていた余暇活動が全て出来なくなりました。

月に一度のカラオケ、春はお花見6月には県南ふれあいスポーツ大会、秋はBBQ、年末は忘年会、3月は慰労会etc.

毎年の恒例行事であったが、気にする利用者様はおりましたが、コロナで、と話す理解は示して頂けました。日々同じ作業をこなし、せめてもの息抜きがない状況が2年目に突入。たまたまの作業が日常化しています。

そんな中でも看護学院様からの委託の花植えは継続して続けさせていたでいます。数少ない屋外での作業となります。通常であれば、ひまわり社においてプランターの土作りを行っていましたが、今回現場で行う事にしました。

プランターを置く台の設置から始まり、プランターを配置。肥料を入れプランター内を移植ベラでかき混ぜます。多少プランターから土をこぼしたりはしましたが、利用者様と共同での作業となりました。

ですが、いつものようにみなさん頑張ってくれました。100個以上のプランターを運ぶのは、利用者様にとつて大変な重労働。作業が終わり利用



者様に確認すると「腰痛ぐね?」と聞くと一言「痛で」と返答。そうだな、と感じつつあまり負担にならない作業工程を考えていかないといけないと思えました。今回は花植えは別日となります。(画像は前年度となります)

花の苗は増田高校様より購入しております。例年、良い苗を提供してもらっております。今年も綺麗に咲いてもらえればと思います。

多少でも看護学院様の美化に貢献出来ていると考えております。

20歳代、60歳代まで幅広い人材がいます。障がいを持った皆さんと毎日を過ごしているといういろいろな課題が見えてきます。一つ一つの大きい壁は決して乗り越えられない壁ではないです。コロナ禍でマスクの着用を求めても着用出来なかったりしましたが、気付くと今ではマスクを当たり前のように着用するようになったりと、小さい壁でも乗り越える事が出来ました。これから利用者様、ご家族様共々一緒に前に向かって進んでいきましょう。

善意ありがとうございました

令和二年四月一日～令和三年三月三十一日まで

法人本部

株式会社テラセキ様

(横浜市駅前町)

朝日綜合株式会社様(横浜市赤坂)

県南愛児園様(横浜市横山町)

小松田文子様

戸巻三紀夫様

すこやか館合

雄物川理容組合様

(横浜市雄物川町)

すこやか大雄

伊藤常雄様

飯島トモ子様(東京都)

石川敦子様(横浜市雄物川町)

法人からのお知らせ

令和3年度より、児童養護施設横浜市立県南愛児園「ドリームハウス」について、設置主体が横浜市から当法人に変更となりました。

これに伴い、施設名称も **県南愛児園ドリームハウス** に変更しております。また、地域小規模児童養護施設「ぎずな」も **ドリームハウスぎずな** に変更しました。

なお、入所定員の変更はなく、従事する職員にも変更はありません。

昭和26年から受け継がれてきた伝統と理念を継承しながら、法人の独自性を生かしより良い施設を目指していきたいと考えております。

新卒職員紹介



県南愛児園ドリームハウス 高橋 稜汰

- ①優しいところ、体を動かすことが好き
- ②ドライブ、ショッピング
- ③尾崎豊
- ④業務内容を見て、聞いて覚え、子どもたちと全力で関わっていききたいと思っています



すこやか館合 高齢者支援課 生活支援係 福原 真人

- ①中学生の時、柔道をしていたため、体力には自信があります。
- ②自宅での読書(1日1冊は読んでいます。)
- ③積み重ねていくことが大事
- ④少しでも早く覚えて、ある程度のことは任せてもらえるようにになりたいです。

編集後記

年寄りの戯言かもしれないが、新型コロナウイルスの感染がはじまってから情報報道のなかで次々にカタカナ語が出てくる昨今大変勉強になる一方適切に表現できる日本語が見あたらないのか不思議に思う。
クラスターからはじまってパンデミックとコロナストレスにさらされテレワーク、ソーシャルディスタンス、ステイホーム、テイクアウト、ライブスルータッキング、リモート授業、コロナアプリ障害等々…。

- ①アピールポイント
- ②リフレッシュ方法
- ③好きな言葉、好きな人物
- ④令和の目標